

全酪連会報 **1**

2018 JAN No.628



新年の御挨拶

代表理事会長 砂金甚太郎
農林水産省生産局長 枝元真徹

酪農とのかけはし
遠藤裕子さん

酪農業に対する
理解醸成活動報告

酪農トピックス
東北・渋谷「なかよし交流40周年記念式」
—東北酪農青年女性会議—
(仙台支所発)ほか

酪政連活動報告

平成29年度
全酪連会員職員研修会

日本酪農見て歩紀
福島県川内村 井出牧場



全国酪農業協同組合連合会

新年の御挨拶

全国酪農業協同組合連合会 代表理事会長

砂金 甚太郎



新年明けましておめでとうございます。

全国の酪農生産者・会員の皆様及び関係者の皆様におかれましては、良き新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

日頃より、弊会事業に特段の御支援御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

平成30年の年頭に当たりまして、一言御挨拶申し上げます。

昨年1年を振り返りますと、世界全体の経済情勢は全体に緩やかな回復基調で推移いたしました。が、欧州を始め世界各地で頻発するテロや北朝鮮を巡る情勢の緊迫化、アメリカ新政権の政策運営への不安

視などもあり、先行きを見通しがたい状況が続きました。

日本国内においても景気は回復基調にあります。が、国内の自動車メーカーや大手鉄鋼メーカーによる品質検査に関する不正が発覚するなど、企業の社会的責任が大きく問われた1年となりました。

さらに、昨秋に行われた衆議院選挙で与党が圧勝したことにより、官邸主導による政権運営が今後も継続すると思われ、農業関係に向けた改革の動きに引き続き注視する必要があります。

一方、我が国の酪農情勢につきましては、都府県

を中心に酪農家戸数、乳牛頭数の減少が続いており、近年は酪農経営を直撃する自然災害も多発しています。昨年は九州北部豪雨などにより、多くの酪農家が被災されました。被害に遭われた方々には、改めてお見舞いを申し上げます。

また、加工原料乳補給金制度の見直しや、EUとのEPA及び米国抜きのTPPなど、酪農に直結する世の中の動向もめまぐるしい展開を見せております。

このような状況の中にあつて、全酪連が従来どおりの事業の進め方にこだわって行きては、将来的に行き詰まることになるのは想像に難くありません。

こうした実情も踏まえ、昨年11月1日には機構改革を実施し、新しい組織体制をスタートさせております。酪農を取り巻く現在の困難な状況及び今後予想される環境の変化に対応すべく、事業戦略の企画・立案から事業の管理・統制、対応行動への展開を効率的に行う部署として企画管理部を配置いたしました。併せて、酪農生産現場での経営・技術の向上に関する普及活動に注力していく姿勢をより明確にするため、購買部を購買生産指導部と改称いたしました。

本年4月からはこの新しい機構により策定された、今後3ヶ年の事業方針となる第十一次中期事業

計画が始まります。

全酪連では平成23年に、我が国酪農生産基盤の維持・拡大を目指し「全酪連将来ビジョン」として、全酪連の10年間の基本方針をとりまとめました。それから5年が経過し、本年はその折り返しに当たることから、中間総括としてこれまでの取組を検証し、昨今の酪農情勢の変化も考慮して中間総括を行いました。

今回の中期事業計画ではこの総括内容も考慮しつつ、①酪農経営環境の安定化、②酪農生産現場の生産性向上、③酪農生産物の販売強化、④組織運営の効率化と財務体質の強化、⑤コンプライアンス経営の推進、以上の5点を大きな柱とする基本施策として、事業を展開してまいります。

全酪連といたしましては、今後とも全国の酪農生産者・会員の皆様の御協力と行政・関係団体の御指導御支援を賜りながら、日本の酪農の将来への持続的発展に向けて、中長期的に本会の果たすべき役割を着実に実行することで、酪農専門農協の全国連として日本の酪農の振興と発展に寄与していく所存であります。

最後になりますが、全国の酪農生産者・会員役員の皆様の御健勝と御発展を御祈念申し上げます。新年の御挨拶とさせていただきます。

年頭の御挨拶

農林水産省生産局長 枝元 真徹



明けましておめでとうございます。平成30年の新春を迎えるに当たり、一言、御挨拶を申し上げます。

一昨年に引き続き、昨年も、度重なる豪雨や台風など、多くの災害が発生し、畜産業も大きな被害を受けました。農林水産省といたしましても、被災された皆様が、今後も畜産業に対する希望をもって、前向きに復旧・復興に取り組んでいただけるよう、全力で支援してまいります。

昨年11月には「包括的及び先進的な環太平洋パートナーシップ協定」(TPP11協定)が大筋合意に、12月には日EU経済連携協定が交渉妥結に至るなど、我が国畜産業は新たな国際環境を迎えております。昨年11月に改訂された「総合的なTPP等関連政策大綱」に基づき、意欲ある農業者が安心して経営に取り組めるよう経営安定対策の充実を図るとともに、これまでの体質強化対策の

実績等の検証を踏まえ、必要な施策を実施してまいります。

さらに、農業者の所得の向上を図るため、農業者の努力では解決できない構造的な問題を解決するため、平成28年11月に取りまとめた「農業競争力強化プログラム」並びに昨年8月に施行された「農業競争力強化支援法」に基づき、農林水産省一丸となって、農林水産業の成長産業化、「強い農林水産業」と「美しく活力ある農山漁村」の実現に向けて、引き続き全力をあげてまいります。つきましては、年頭に当たり、今後の畜産行政について主な課題と基本的な取組方針を申し述べます。

生乳生産・酪農経営の安定等

我が国の酪農をめぐる情勢につきまして、高齢化や後継者不在による酪農家戸数の減少等に伴い、生乳生産量は減少傾向で推移し、29年度

についても前年度を下回ると見込まれております。

このように、国内の生乳生産は依然として厳しく、酪農・畜産の生産基盤の強化は、引き続き喫緊の課題となっております。生産コストの削減などの体質強化対策として、畜産クラスター事業を活用した施設整備や機械導入、性別別精液の活用等による優良な乳用後継雌牛の確保への支援等を実施していく考えです。

また、昨年6月に改正畜産経営安定法が成立し、加工原料乳生産者補給金制度を恒久化するとともに、飲用向けと乳製品向けの調整の実効性の担保、条件不利地域の確実な集乳などに配慮しつつ、補給金交付対象の拡大、集送乳調整金の交付等を行うこととする新たな制度が本年4月からスタートします。

これにより、生産者にとっては、生乳の仕向け先の選択肢が広がるこ

とで自ら生産した生乳をブランド化し、加工・販売する取組など、創意工夫による所得向上の機会を創出しやすくあります。一方、事業者にとっては、生産者の選択に因應するため、流通コストの削減や乳価交渉力の更なる強化が必要となります。また、これまで飲用向けのみ仕向けていた方についても、乳製品向けに計画的に仕向けていく方向に誘導できるものと考えています。

農林水産省としても、生産現場の意見を十分に踏まえつつ、新制度を適切に運用することにより、生乳の需給安定を通じた酪農経営の安定と消費者への牛乳・乳製品の安定供給に努めてまいりたいと考えております。

チーズを中心とする乳製品については、国産の競争力を高めるため原料乳の低コスト・高品質化の取組の強化、乳製品の製造コストの低減と

品質向上・ブランド化等を支援してまいります。

肉用牛生産・畜産経営の安定等

牛肉や子牛価格は平成27年度の価格高騰の反動により、低下傾向で推移しているものの、依然として高い水準で推移しております。また、肉用子牛生産については、生産者の高齢化等により農家戸数や飼養頭数が減少傾向にありましたが、これまでの生産基盤強化対策の実施により、28年度は肉用牛の繁殖雌牛頭数が6年ぶりに増加に転じ、29年度も継続して増加するなど回復の傾向にあります。農林水産省といたしましては、肉用牛生産をはじめとする畜産経営の安定を図っていくため、引き続き、肉用子牛生産者補給金制度、牛マルキン等の経営安定対策を着実に実施するとともに、「競争力強化プログラム」に基づき、畜産クラスター事業等を活用した省力化機械の導入やキャトルステーションの整備等生産コストを低減する取組への支援、受精卵移植の活用による効率的な和子牛生産、ICTを活用した発情発見機等の技術の活用により、肉用牛生産基盤の強化を支援してまいります。

配合飼料価格への対応等

配合飼料価格については、短期的かつ急激な上昇に対しては配合飼料価格安定制度、中長期的な高止まりに対しては経営安定対策を組み合わせて措置することで、畜産経営の安定を図ってまいります。また、配合飼料価格安定制度については、補填財源の確保及び借入金計画的な返済を促すことにより、引き続き、制度の安定的な運営に努めてまいります。また、良質かつ低廉な農業資材の供給等に向けて「農業競争力強化支援法」及び「競争力強化プログラム」に基づき、①事業再編、②「見える化」及び③銘柄集約等の取組を進めてまいります。

あわせて、輸入飼料原料への過度の依存から脱却し、飼料生産基盤に立脚した足腰の強い畜産経営を実現するため、引き続き国産飼料の一層の増産と着実な利用の拡大を推進するとともに、30年度から子実とうもろこし等の国産濃厚飼料の本格的な生産・利用体制構築のための支援を開始します。

畜産物の輸出への対応等

国内で少子高齢化が進む中、将来

にわたって国産畜産物の需要を安定的に確保する上でも中長期的に成長が見込まれる海外市場を積極的に開拓することが必要です。

特に、畜産物の輸出については、牛肉を筆頭に堅調に伸びており、とりわけ昨年9月に牛肉の輸出が再開した台湾は、解禁直後の10月に42t(全世界輸出量272tの15%)が輸出されるなど、今後の有力な輸出先として期待されます。引き続き、平成31年の農林

水産物・食品の輸出額1兆円目標(うち畜産物463億円)の達成に向けて、輸出先国の衛生基準を満たす食肉処理施設の整備や、日本産畜産物の強み(味、安全性等)のPRやこれを活かす食べ方を伝えるための取組等を支援するほか、民間では対応できない外国の規制等への対応について、当省としても全力で取り組んでまいります。

併せて、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会などの機会に、国産畜産物の質の高さが見える形でアピールできるよう、日本版畜産GAPの普及などに取り組んでまいります。

東日本大震災・原発事故からの復旧・復興

原発事故に対しては、安全な畜産

物を供給するため、適正な飼養管理の徹底と、草地除染と汚染廃棄物の処理等に関係省庁等と連携して実施するとともに、「食べて応援しよう!」のキャッチフレーズの下、被災地及び周辺地域で生産・製造されている農林水産物の積極的な消費拡大も促進してまいりました。本年も、生産者が一日も早く営農再開を果たせるよう、引き続き取り組んでまいります。

皆様御承知のとおり、我が国の畜産業は、農業総産出額の約35%を占める重要な産業であり、安全・安心な畜産物を消費者に安定的に供給するだけではなく、地域経済の維持・活性化、良好な景観の形成等の多面的な機能の発揮を通じ、国民生活において重要な役割を果たしております。

農林水産省としましては、以上のような取組を着実に実施することにより、我が国の畜産業の一層の発展、充実を図るとともに、食の安全と消費者の信頼確保に努めてまいります。

皆様におかれましては、昨年にも増して、畜産行政への御理解と御支援を賜りますようお願い申し上げますとともに、皆様方の一層の御健勝と御活躍を祈念いたしまして、新年の御挨拶とさせていただきます。

酪農との かけはし



第11回 全酪連預託受入牧場

牛が集まる 保育園の園長さん

えんどう ひろこ
遠藤 裕子さん

年齢:56歳

お住まい:北海道士幌町

略歴:25年前までは酪農家であったが、その後育成農家へ転向。全酪連預託は平成6年から受け入れを開始し、現在は常時320頭前後の育成牛を息子の洸介さんと2人で管理している。道内40戸の全酪連受入牧場の中でトップクラスの繁殖成績を誇る。平成29年12月5日に札幌で開催された酪農女性サミット2017の際に開催された「酪農現場で働く女性のモチベーションUP!」と題したパネルディスカッションにおいてパネリストを務め、頑張る酪農女性に熱いエールを送った。

その職業に携わるまでの道のりや、やりがい

私は生まれも育ちも酪農家であり、嫁ぎ先も酪農家でした。嫁いだ先の遠藤牧場は飼養頭数150頭、搾乳頭数60頭で搾乳を行っていました。25年前に、主人が体調不良により搾乳を辞め育成農家へ転向し、平成6年から全酪連の預託事業を行っております。

主人が他界した後も、地域の方々からの支えがあったおかげで、「まだ、ここに居ても良いんだ。」と思いい、今でも地域の方々や子供たちに

お世話になりながら牧場経営を続けております。

主人が亡くなった後でも、大好きな牛と一緒に仕事ができることにや

りがいを感じ、また、好きな仕事

で子ども4人と父母と

一緒に生活

できる事は

ありがたい



▲ 裕子さんと息子の洸介さん

遠藤さんが感じる酪農の魅力とは

まず、「酪農」という職業自体に魅力を感じます。こんなにも自由な仕事ができる仕事は他に無いのではないのでしょうか。同じ農業でも畑作農家さんは、季節や作付けの時期が決まってしまうますが、酪農家は定期的な縛りは無く、自分が思ったことは施設の改良や管理の仕方を工夫するなど、いろんな事を自由に試すことができると思います。また、自分の努力や工夫、技術に対して牛たちはきちんとして結果で答えてくれると

いう所にも魅力を感じます。

それから、

何と云って

も牛の一生を

見ることが

できる事が

魅力だと思

います。自分

の子どもの成長を見守るように、子

牛が成長し、母になり、また子ども

が産まれるという、成長の過程を見

守る楽しさがあると思います。



▲ 暖かい牛床で寒い冬も牛は快適



遠藤牧場の 1日のタイムスケジュール

5:00 ▶	起床
5:30 ▶	朝の給餌
7:00 ▶	朝食
8:30 ▶	牛舎作業 (給餌・除糞・授精など)
12:00 ▶	昼食
13:00 ▶	牛舎作業 (事務作業・繁殖健診・ 出荷準備など)
17:00 ▶	帰宅・家事

全国の酪農家に一言!

牛も人も使い捨てではありません。牛も人も幸せな酪農を目指してください。とても夢と愛に溢れる仕事ですので。

今後の酪農に必要な事、望むこと

様々な牧場からの牛たちを預かっている、その牧場でどのように育てられてきたかがわかります。親牛の残滓が与えられていた牛だったり、環境の芳しくない場所で管理されていた牛だったり、可愛がられていなかった牛は特にすぐわかります。人間の赤ちゃんを空気が汚くて、暗



▲ 下牧直前の牛たち

く、冷たい場所に置いておく人はいないはず。子牛も同じなのではないでしょうか？将来、自分の牛群を支える子牛たちへの先行投資と考えて、良質な餌を与え、清潔で暖かくて明るい、安全な場所を作ってあげて欲しいと思います。

また、酪農は「毎日労働で大変な仕事。」という固定概念を払拭してほしいと思います。ワンマン社長がやっているような、閉鎖的・封建的な酪農も変えてほしいと思います。

酪農ほど、女性に向いている仕事は無いと思っています。子牛の哺乳や牛の世話などで母性を発揮するのは女性であり、女性の感覚を大切に、女性が楽しく元気に仕事ができる



▲ 授精牛舎、時期によりハネ物の人参を与えています

「女性には力仕事ができないでしょ？」と言うお父さんがいるので、是非、お父さん方は

お父さん方は

機械の乗り方をお母さんに教えてあげてください。もし、従業員がいるのであれば、従業員のモチベーションを上げる事も必要です。例えば、年間で事故率を何%以下に抑えたら、皆で慰安旅行に行くとか、発情発見を

している現場は、おのずと経営も良くなっているはず。酪農が「楽農」になる事を望みます。私が行っている預託事業はまさに、酪農とのかけはしであり、牛だけでなく、人も

交流し、様々なネットワーキングが広がって、酪農は楽しい、カッコいいというイメージに変わっていったらいいと思います。

交流し、様々なネットワーキングが広がって、酪農は楽しい、カッコいいというイメージに変わっていったらいいと思います。



▲ 遠藤牧場の牛は人懐っこい

酪農業に対する理解醸成活動報告



全酪連では、酪農業に対する理解醸成活動として、酪農家戸数が減少していることに伴い生乳生産量が減少し、このままでは国産牛乳・乳製品が無くなるかもしれないことを消費者の方に訴え、“牛乳を飲んで応援していただく”べく、全国酪農青年女性会議に協力いただきながら、まな板シート・チラシ計3,000セットを配布しPR活動を行いました。10月20日(金)に東京都 JR有楽町駅の駅前広場にて行った活動に前後して、全国各地で順次活動を行いましたので、その活動結果を抜粋してご報告いたします。ご協力いただいた関係者に深く御礼申し上げます。

札幌支所管内



北ガス文化ホール
「ちとせ消費者まつり2017」(北海道千歳市)
 開催日: 10月15日(日)
 参加者: 北海道酪農青年女性会議 3名



マオイの丘公園 農産物直売所
「マオイの丘 農産物直売所大感謝祭」(北海道夕張郡)
 開催日: 11月3日(金)
 参加者: 北海道酪農青年女性会議 3名

仙台支所管内

仙台市勾当台公園
「みやぎまるごとフェスティバル」
 (宮城県仙台市)
 開催日: 10月14日(土)～
 15日(日)
 参加者: 東北酪農青年女性会議
 他 15名



岩手町スポーツ文化センター
「岩手町産業まつり」(岩手県岩手町)
 開催日: 10月28日(土)～29日(日)
 参加者: 岩中酪青年女性会議 10名



鹿角家畜市場
「かづの畜産まつり」(秋田県鹿角市)
 開催日: 10月15日(日)
 参加者: あきた北部酪農青年婦人会議 6名

花巻市文化会館
「花巻市歯科保健大会」
 (岩手県花巻市)
 開催日: 11月11日(土)
 参加者: 岩中酪青年女性会議
 7名



渋谷区代々木公園
「しぶやくみんの広場2017」(東京都渋谷区)
 開催日: 11月4日(土)～5日(日)
 参加者: 東北酪農青年女性会議 他 13名

「も～も～スクール」(福島県)
 開催日: 10月14日(土) 石川町立石川小学校
 11月 6日(月) 二本松市ほうとく保育園
 11月12日(日) 西郷村立川谷小学校
 参加者: 福島県酪農青年研究連盟 他 10名

東京支所管内

栃木県畜産酪農研究センター
「栃木県酪農フェア2017」

(栃木県那須塩原市)
開催日: 10月14日(土)
参加者: 栃木県酪農青年女性会議
他 26名



新潟市中央卸売市場
「旬果旬菜いきいきフェスタ」

(新潟県新潟市)
開催日: 10月15日(日)
参加者: 新潟みらい農業協同組合
他 8名



佐渡広域総合流通センター
「第21回佐渡ふれあいアッセまつり」(新潟県佐渡島)

開催日: 11月3日(金)
参加者: 佐渡ホルスタイン改良同志会、佐渡農業協同組合 6名



サントピアワールド
「あがのわくわく
産業フェア2017」

(新潟県阿賀野市)
開催日: 11月5日(日)
参加者: あがの酪農同志会、
酪農にいかた農業協同組合
11名



水戸駅ビル「エクセル」
「茨城県牛乳消費拡大事業ポスターコンクール」(茨城県水戸市)

開催日: 11月2日(土)
参加者: 茨城県酪農協同組合連合会 他 6名



みはらしファーム
上伊那地域酪農協議会「酪農祭」(長野県伊那市)

開催日: 11月3日(金)
参加者: 長野県酪農青年女性会議 他 30名

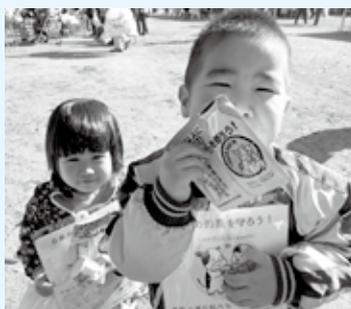
中山道沿線商店街
「第12回深谷市産業祭」

(埼玉県深谷市)
開催日: 11月4日(土)~
5日(日)
参加者: 埼玉酪農協同組合
他 15名



寄居町立総合体育館
隣接特設会場
「第44回寄居町産業文化祭」

(埼玉県寄居町)
開催日: 11月11日(土)~
12日(日)
参加者: 埼玉酪農協同組合
他 13名



JA前橋市ふれあい広場
「前橋市農業まつり」

(群馬県前橋市)
開催日: 11月11日(土)
参加者: 群馬中央酪農協同組合 3名

JA太田市城西の杜直売所
JA太田市・東毛酪農共催
「第10回農業祭」

(群馬県太田市)
開催日: 11月18日(土)
参加者: 東毛酪農協同組合
26名





愛知県畜産総合センター
「畜産フェスタ」(愛知県岡崎市)
 開催日: 10月14日(土)
 参加者: 愛知県・愛知の消費促進推進協議会 4名



愛知県岡崎市殿橋下流乙川河川敷
「岡崎城下家康秋まつり」(愛知県岡崎市)
 開催日: 11月4日(土)~5日(日)
 参加者: 愛知県酪農農業協同組合、岡崎支所組合員 8名



みよし市緑と花のセンター「さんさんの郷」
「産業フェスタみよし2017」(愛知県みよし市)
 開催日: 11月5日(日)
 参加者: みよし市酪農組合 5名



愛知県半田市JFEスチール会場
「2017はんだふれあい産業まつり」
 (愛知県半田市)
 開催日: 11月11日(土)
 参加者: 半田市酪農組合
 飼料配合所、
 愛知県酪農農業協同組合
 尾張支所 10名



北山区民館
「武豊町北山ふれあい祭り」(愛知県知多郡武豊町)
 開催日: 11月19日(日)
 参加者: 愛知県酪農農業協同組合 尾張支所、尾張支所管内酪農家 2名



ひまわり農協東部営農センター
「JAひまわり東部農業まつり」(愛知県豊川市)
 開催日: 10月18日(水)
 参加者: 愛知県経済農業協同組合連合会、女性部、ひまわり農協 7名



コミュニティ公園
「JA西三河「農業まつり2017」
 (愛知県西尾市)
 開催日: 10月14日(土)
 参加者: 愛知県酪農農業協同組合
 西尾支所 青年部・女性部・
 事務局 5名



コミュニティ公園
「きらまつり2017」(愛知県西尾市)
 開催日: 11月19日(日)
 参加者: 吉良大上酪農組合 4名





片岡牧場

「バルク見学・仔牛哺乳体験」(愛知県岡崎市)

開催日: 10月18日(火)

参加者: 片岡牧場、豊富小学校3年生 生徒ほか2名



阿久比町役場

「阿久比町産業まつり」(愛知県知多郡阿久比町)

開催日: 11月18日(土)~ 19日(日)

参加者: 愛知県酪農業協同組合 尾張支所、尾張支所管内酪農家、JAあいち知多 22名



赤羽根校区

「第14回赤羽根市民館まつり」(愛知県田原市)

開催日: 10月21日(土)

参加者: 愛知県酪農業協同組合 渥美支所女性部 3名



豊田スタジアム

「農業知って! JAフェスタ」(愛知県豊田市)

開催日: 10月29日(日)

参加者: 愛知県酪農業協同組合、雪印メグミルク、東海酪農業協同組合連合会 11名



有限会社 大東牧場

「社会科見学」(愛知県新城市)

開催日: 11月14日(火)

参加者: 森 智子、作手小学校5年生 生徒ほか1名



泉市民館

「第12回泉市民館まつり」

(愛知県田原市)

開催日: 11月4日(土)

参加者: 愛知県酪農業協同組合
渥美支所、渥美支所女性部長
3名



武豊町町民会館(ゆめたろうプラザ内)

「武豊町ふれあい産業祭り」(愛知県知多郡武豊町)

開催日: 11月11日(土)~ 12日(日)

参加者: 愛知県酪農業協同組合 尾張支所、尾張支所管内酪農家、JA職員 8名



三重県総合文化センター フレンテみえ

「第30回農山漁村のつどい」(愛知県津市)

開催日: 11月11日(土)

参加者: 大内山酪農業協同組合、三重県酪農業協同組合連合会、酪農家 6名

JR岐阜駅北口 駅前広場

「第7回岐阜市農業まつり」(岐阜県岐阜市)

開催日: 11月5日(日)

参加者: 岐阜県酪農業協同組合連合会 3名

福岡支所管内



別府公園

「第41回大分県農業祭(畜産フェスタ)」(大分県別府市)

開催日:10月14日(土)

参加者:大分県酪農青年女性会議、大分県酪農業協同組合 25名



みどりの王国敷地内

「第32回ななせの里まつり」(大分県大分市)

開催日:11月5日(日)

参加者:大分県酪農青年女性会議、大分県酪農業協同組合 15名



博多駅博多口周辺

「酪農理解醸成活動」

(福岡県福岡市)

開催日:10月19日(木)

参加者:九州酪農
青年女性会議 25名

大阪支所管内



神戸市立六甲山牧場 「兵庫県酪農祭」

(兵庫県神戸市)

開催日:10月28日(土)

参加者:兵庫県酪農業
協同組合 女性部
15名

広島城内の会場

「ひろしまフード
フェスティバル2017」

(広島県広島市)

開催日:10月28日(土)~
29日(日)

参加者:広酪メンバーズ
クラブ 18名



山口県児童センター (山口市維新公園)

「MILK・JAPAN in山口」

(山口県山口市)

開催日:11月23日(休)

参加者:山口県酪農
青年女性会議
16名

岡山市浦安総合公園

「おかやまミルクフェア
2017」

(岡山県岡山市)

開催日:11月3日(金)

参加者:おかやま酪農
協青年部・女性部
14名



松山市城山公園

「えひめ・まつやま
産業まつり2017」

(愛媛県松山市)

開催日:11月18日(土)
~ 19日(日)

参加者:愛媛県酪農
経営者協議会
7名

天文館ぴらもーる
(鹿児島銀行ATMコーナー)周辺
「天文館フェスタ」

(鹿児島県鹿児島市)
開催日: 10月15日(日)
参加者: 鹿児島県酪農業協同組合
8名



多久駅周辺会場
「多久まつり」(佐賀県多久市)

開催日: 10月29日(日)
参加者: 佐賀県酪農婦人部連絡協議会 3名



佐賀県佐賀市嘉瀬川河川敷
「2017佐賀インターナショナル
バルーンフェスタ」

(佐賀県佐賀市)
開催日: 11月2日(木)
参加者: 佐賀県酪農婦人部
連絡協議会 6名



高良谷牧場
「おおむら牧場まつり」(長崎県大村市)

開催日: 11月3日(金)
参加者: 長崎県酪農青年女性会議 3名、他 生産者 3名



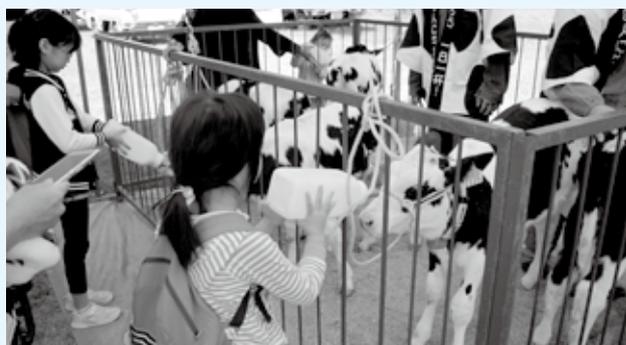
長崎県立諫早農業高等学校
「農業文化祭」(長崎県諫早市)

開催日: 11月19日(日)
参加者: 長崎県酪農青年女性会議 3名、他 生産者 6名



ながみね保育園(熊本市東区)
「酪農ふれあい体験交流事業」(熊本県熊本市)

開催日: 11月1日(水)
参加者: 熊本県酪農青年壮年部協議会 100名



熊本県家畜市場(菊池郡)

「熊本県乳牛共進会場での理解醸成活動」(熊本県菊池郡大津町)
開催日: 11月12日(日)
参加者: らくのうマザーズ、熊本県酪農青年壮年部協議会、
熊本県酪農女性部協議会、熊本県乳牛改良同志会 430名

見と歩紀

No. 296

井出牧場
福島県川内村

震災を乗り越えて 100%自家育成で勝負

地域の概要

今回訪問した井出牧場がある福島県川内村は、阿武隈高地の中央部に位置し、標高400〜600mの中山間地域です。夏の気温はあまり高くなることはなくたいへん過ごしやすく、冬の期間はやや長いものの

雪は少なく風も弱く、高地としては過ごしやすい気候条件です。村内には、国の天然記念物となっているモリアオガエルの生息地である平伏沼へがすぬまがあり、平成29年で3回目を迎えた『かわうちの郷かえるマラソン』の名前の由来となっています。

井出牧場が所属する福島県酪農業協同組合（宗像実代表理事組合長）は、酪農家戸数185戸、生乳出荷数46,812t（平成28年度）となっています。

牧場紹介

井出牧場は淳あつしさん（41才）で3代目。牛舎、圃場全般を担当しています。奥様ののてい子さんも搾乳を始め牛舎全般、母親の洋子さんは哺乳と搾乳をメインに、3人で搾乳牛55頭、育成牛30頭を管理しています。



▲ 井出淳さんと奥様ののてい子さん



▲ 搾乳舎全景





▲ 建設中の哺育舎

祖父の代から乳牛を飼養し始め、父の代で30頭ほどになりました。淳さんは農業短大を卒業後、県内で酪農ヘルパーを5年間勤め、その後に就農しています。現在の60頭繋ぎ牛舎は、15年前に自宅から5000mほど離れたこの場所に新築しました。当時淳さんは27才でしたが、若いうちに借金して早いうちに返済したいと考え、牛舎の返済は40才前に終えました。しかし、修繕が始まったり、新たな哺育舎（12頭）の借り入れもあつたりとなかなか大変なようです。

現牛舎を建てた時は「1人でも3時間で作業ができるように」と、自動給餌機を前提に作業動線を十分に考えて牛舎を設計し、キヤリロボは4年程前に導入しました。その当時、淳さんはミルクカーを運べないほどに腰を痛めたため、父親と相談してこれを導入。「乳量や乳質のデータも記録できますし、自動給餌機と連動していますから配合飼料給与量も自動で調節してくれます。手間が減って非常に助かっています」とキヤリロボを気に入っている様子です。しかし、乳量が狂ったなどのトラブルもあつたそうで「今使っているシス



テムでこのような事態はありませんが、これからも注視していこうと思います」。常に不測の事態に備え、準備を怠らない姿勢が淳さんの特徴です。

井出牧場の転換期

井出牧場は先述した通り、「1人でも3時間で作業ができるように」と考えて作られた牧場。酪農家はただでさえ休みが無いため、楽に仕事ができることに越したことはありません（手抜きとは違います）。それを進めてきたら省力化の色が強い牛舎になってきていたそうです。新牛舎に移った後、本人たちも、牛たちも勝手が変わって少し調子を崩し、繁殖がうまくいかず、つまずきました。それ以降の6年間は繁殖成績を戻すことに専念。その甲斐あつて成績もよくなり、結果が出そうだと家族皆が期待していた矢先に東日本大地震が発生しました。

震災を受けて

井出牧場は地震の揺れによる被害はほとんどなく、電気、水道も問題ありませんでした。しかし、原発事故が発生し、生乳の出荷停止を余儀

なくされてしまいました。村の雰囲気もどこか暗くなり、「ただでさえ静かなこの集落ですが、付近の住民のほとんどは自主避難を決め、自宅を離れてしまいました。残った我が家を含む一部の畜産農家と寝たきりの家族を抱える家庭にだけ、電気が灯っていましたね」。生乳出荷停止を受け、初めの2、3日は飼料の給与量を抑えていましたが、牛（特に分娩直後の牛）の状態は目に見えて悪くなっていました。6年もかけて繁殖成績を良い状態に戻し、分娩を待ち構えていた年であつただけに余計に諦めきれませんでした。「せつ



▲ 御影石の飼槽は、掃除が楽です

かく続けてきたことがこのままでは無駄になるどころか、以前よりも悪くなる。」と父親と相談して給与量を元に戻し、「2人で続けられるところまで続けよう。面倒みられるところまで面倒見よう」と決意しました。震災前と変わらぬ管理を続けた結果、半年後には、出荷再開時の倍近くの生乳を出荷することができました。

震災前100%自給だった粗飼料（オーチャード、チモシー）の30町歩の圃場は放射能に汚染されてしまいました。「震災後、30町歩すべての圃場を除染し、毎年播種して収



▲自動給餌機

穫し、検査に出して。給与不可と言われた牧草はすべて処分して。6年経った今年、時間は掛かりましたが、やっと3町分が給与可能になりました。早く元の状態に戻りたいです。堆肥は、和牛農家と堆肥組合を作っていますのでそちらで処理して販売、残った分は牧草地に還元しています。」

こうした点が評価され、淳さんは平成29年に第58回福島県農業十傑を受賞されました。川内村で唯一酪農を続けた道のりはとても困難なものだったと思いますが、力強く前を向いてよりよい酪農を目指す姿勢に私たちも力をもらっています。

後継牛も100%自家育成

後継牛も昔からほぼ100%自家育成です。現牛舎を建てた時も現在F1の値が非常にいい時期が続いています。ホルにはホルを付けないうとホルスタインは生まれません。牛床を余らせてまでF1を付けるのはどうかなくて、一時の利益は得られるでしょうが『あれ？搾乳牛がいねえ』となってからだと3年以上かかりますよね。私は生乳で食べてい



▲自動搬送搾乳機

きたいと思っています。」現在、搾乳牛5〜6頭分のスペースに子牛を繋いでいますが、建築中の哺育牛舎が完成すれば、そこも搾乳牛で埋める予定にしています。

今後の目標

淳さんは日中常に牛舎や圃場について、牛のために何かしらしています。本人も何かしていたいそうです。「省力化して時間が出来た分、牛舎の掃除をしたり、繁殖を見たり、圃場に出たり、何かしたいです。哺育舎が完成すれば、この牛舎は一先ず完了って感じですよ。その哺育舎は9

月に完成予定でしたがずれこんでしまい、今年中（平成29年）にできればいいかなと思っています。新たに牛舎や堆肥舎の補改修が出てくるとは思いますが、この設備・規模を維持していきたいです。」井出牧場ではこの冬から春にかけてどんどん分娩が続くので、早く哺育舎が完成してほしいと願っています。

また「牛づくり」にも余念がありません。淳さんは精液の供給元に牛群の血統情報を送り、近交にならないようにマッチングしてもらっています。「トータルバランスで候補を上げてもらってから選んでいます。牛舎新築以前まで積極的に参加していた共進会も、最近やっと目を向けられるようになりました。これからは時間をかけて、いい牛をつくってきたいですね」。共進会での活躍にも期待しています。

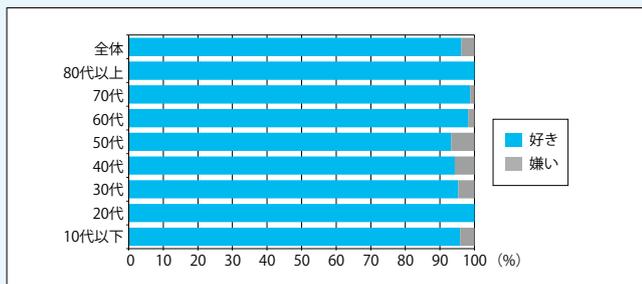
震災も大きなきっかけでしたが、休業を含めて仲間が減っていくことが残念であり、同世代が少ないことが非常に寂しいとおっしゃる淳さん。安定を築き上げたようにお見受けしますが、作った時間でやることをどんどん探していく井出さんは、まだまだ期待するところです。

仙台
支所発

東北酪農青年女性会議 理解醸成で「牛乳アンケート」実施

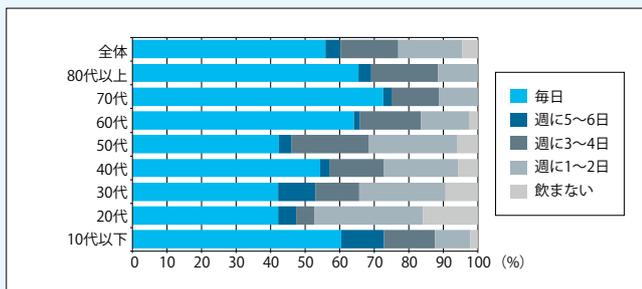
東北酪農青年女性会議（半澤善幸委員長）は、去る10月14、15日に勾当台公園（仙台市）で開催されたみやぎまるごとフェスティバルにおいて理解醸成活動を実施し、同時に来場客に対して『牛乳に関するアンケート』を実施しました。（回答数676）

Q1. 牛乳は好き・きらい？



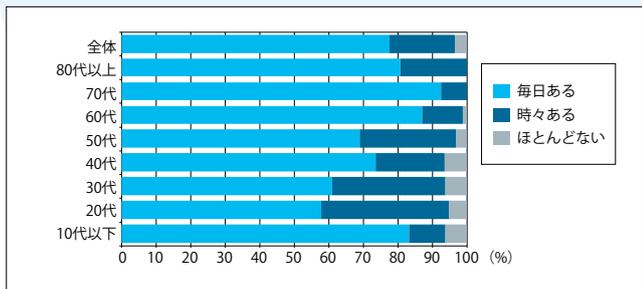
全体で96%の方が『好き』と答え、男女問わずどの年齢層でも9割以上の方が好きと答えました。

Q2. 牛乳を飲む頻度は？



若干男性が低い傾向でしたが、男女ともに半数以上が『毎日飲む』と答え、60代以上の女性は6割を超えていました。10代以下も6割おり、学校給食や親との同居で牛乳が身近な環境にあることが推測されます。一方、男女ともに20～30代では『毎日飲む』は4割程度となり、『飲まない』と答えた方が最も多いのもこの世代でした。

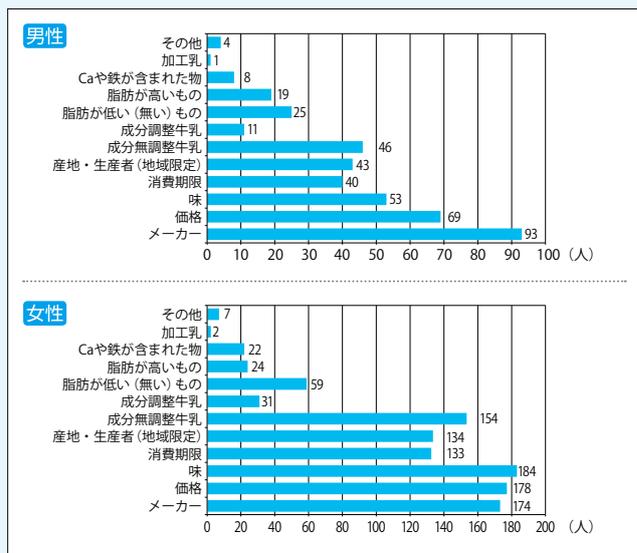
Q3. 冷蔵庫に牛乳は？



『毎日ある』と答えた方は全体で8割弱、60代以上の層では8割を超えていました。この質問でも

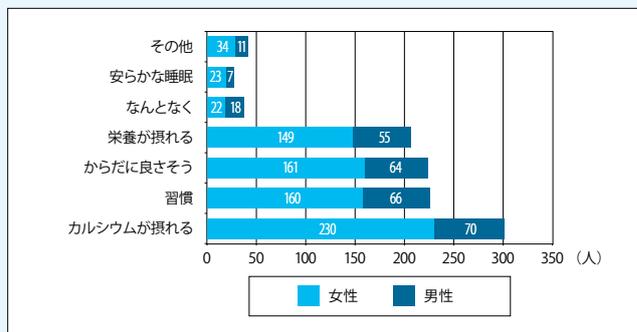
『毎日ある』と答えたのは20～30代の層で最も低かったですが、『時々ある』まで含めると、全体の96%の家庭の冷蔵庫には『毎日、或いは時々牛乳がある』こととなりますね。

Q4. 牛乳を選ぶ基準は？（複数回答）



お気に入りの銘柄があると答えた方は、60代以上に多くみられましたが、牛乳を選ぶ基準（複数選択）を尋ねると、男性は『メーカー』、『価格』、『味』の順、女性は『味』、『価格』、『メーカー』の順。さらに『成分無調整』と『消費期限』も気にしており、脂肪調整乳や成分強化乳など加工乳を好んで選ぶ方は少数派でした。

Q5. 牛乳を飲む理由は？（複数回答）



牛乳を飲む理由（複数選択）を尋ねると、『カルシウムが摂れる』が女性票を集めてトップ。『習慣』を選ぶ方が続き、『からだに良さそう』『栄養が摂れる』と健康志向が目立ちます。

このアンケートにより、牛乳は国民に不可欠な食品であることが再確認できました。（I.M）

仙 台
支所発

東北・渋谷「なかよし交流40周年記念式」 — 東北酪農青年女性会議 —

去る11月23日(木)、東北酪農青年女性会議（半澤善幸委員長）と渋谷少団連サポートクラブ（旧：渋谷区少年団体連盟、鈴木貴代子代表）の「なかよし交流40周年記念式」が、渋谷東武ホテルにて開催されました。

渋谷区の子ども会活動の連盟組織であった渋谷区少年団体連盟は、『都会の子ども達が、思う存分大自然に触れることが出来たら』との思いに東北酪農青女が賛同し、東北の酪農家と渋谷の一般家庭のお互いの子ども達によるホームステイが始まりました。この40年で参加した子供たちは700名を超え、中には親子2代で参加した方も多くいらっしゃいます。その後少団連は、地元の区民

祭りである『渋谷区くみんの広場』への参加も東北酪農青女へ呼び掛け、東北の牛乳・乳製品のPRの場として今でも継続して参加しています。

当日は、双方の関係者60名余りが参集し、双方

の代表から挨拶が述べられた後、全酪連徳永幸男常務理事は『消費地と生産地の交流が40年も続いている事例は他ではあまり聞かない。お互いがお互いの立場を理解し、子どもの教育にも良い影響を与えている関係が長い間続いているのはとても素晴らしいことだ』と祝辞を述べられました。

式典では、福島県酪農青年研究連盟の佐藤会長より震災からの復興状況の報告があり、渋谷の方からは『最近の福島酪農の状況が聞け、復興に向けていくつもの取り組みをしていることで安心しました。』と感想を語っていました。

スライドで当時を振り返りながらそれぞれが思い出話を発表し、この交流をきっかけに畜産関係の業界に就職した渋谷の子供の話や、いまだに家族ぐるみで交流し久しぶりの再会で旧交を温める姿など、その歴史と活動の影響力の大きさを感じる集いとなりました。

参加者は、この交流が多くの人々の絆で支えられていることに感謝しつつ、今後も末永く引き継がれていくことを互いに誓い合い、別れを惜しみながら会場を後にしました。(I.M)



▲ 東北酪農青女 半澤委員長



▲ 少団連SC 鈴木代表



▲ 祝辞を述べる全酪連徳永常務



▲ 昔話に花が咲きました



▲ 50周年を約束して

東京
支所発

関東甲信越酪農青年女性会議 「平成29年度研修会」を開催

平成29年11月28日(火)関東甲信越酪農青年女性会議(小森崇宏委員長：栃木県)主催の「平成29年度研修会」が開催されました。今年度の研修会は新宿「ルミネ theよしもと」(吉本興業)で観劇でした。会員酪農家の方々に普段の農場でのお仕事を少しの間でも忘れていただき、大いに笑って楽しんでいただく企画で会員・事務局87名の参加がありました。

前座「3時のヒロイン」のライブで開演し、10組のユニットが続々と登場し、コントが繰り広げられました。中にはテレビでもお馴染みの顔も出演していました。関甲信酪青女が大きく貢献していると思われま



▲ 記念撮影

すが、座席数458席の劇場は平日午後というのにほぼ満席状態で、笑いの渦、大盛況でした。極楽とんぼ山本がコントの中で入場団体「関東甲信越酪農青

年女性会議」を紹介した時は、参加者の歓声は最高潮でした。約70分間の公演予定でしたが20分程度延長されて15時半頃終演となりました。



▲ 懇親会の様子

よしもと観劇後は、「銀座アスター新宿賓館」に場所を移し懇親会が開催されました。小森委員長の開会のご挨拶、江部広大副委員長(新潟県)の乾杯のご発声で懇親会が始まりました。円卓を囲みながら華やいだ雰囲気の中で中華のコース料理に舌鼓。時間が経つにつれて会場は、だんだんと盛り上がり行きました。そして恒例のビンゴ大会。今回は南波留一志監事(茨城県)が抽選と進行を担当されました。豪華景品を巡って一喜一憂、歓喜の声・落胆の声。会食の2時間はあっという間に過ぎて、秋山順子副委員長(埼玉県)の中締め、参加者全員の記念撮影で解散となりました。(I.Y)

酪政連活動報告

日本酪農
政治連盟

平成29年10月～12月

10/10	第48回衆議院議員総選挙公示に伴い、酪農の発展に理解のある候補者に対し、推薦状を送付し、激励電報などを打電。	11/29	自民党酪政会総会が開催される。委員長から「平成30年度酪農政策・予算確保」を要請し、意見交換を実施。 常任・中央委員合同委員会を開催し、「平成30年度酪農政策・予算確保、平成30年度畜産物価格及び関連対策」を協議した後、議員会館を訪問し、要請活動を実施。
10/10 ↓ 10/21	酪農の発展に理解のある候補者の選挙事務所等を訪問し、応援活動を実施。(委員長、副委員長等)	12/11	自民党畜産・酪農対策委員会が開催され、委員長から「平成30年度畜産物価格及び関連対策」を要請する。
10/23	酪農の発展に理解のある当選者に対し、当選の祝電等を打電。	12/14	自民党農林・食料戦略調査会等合同会議が開催され、平成30年度畜産物価格等の決定報告がなされる。委員長からお礼の挨拶を述べる。
11/1	主要な農林関連議員の議員会館を訪問し、お祝を述べる。(三役)		

平成29年度 全酪連会員職員研修会

全酪連では会員組織の機能強化及び職員のスキルアップを図ることを目的に今年も会員職員研修会を下記2カ所にて開催しました。

東日本会場：11月22日(水) TKP東京八重洲カンファレンスセンター（東京都中央区）

西日本会場：12月5日(火) ホテルセントラーザ博多（福岡県福岡市）

研修内容

1 消費税の軽減税率制度について

講師

（東日本）

財務省主税局 税制第二課 消費税第二係

畑尾 傑人氏

東京国税局 課税第二部 消費税課

軽減税率制度係 国税実査官

上野 公平氏

（西日本）

財務省主税局 税制第二課

消費税第二係 調査主任

小海 栄治氏

福岡国税局 課税第二部 消費税課

軽減税率制度係 国税実査官

永渕 哲也氏

平成31年10月1日より消費税率の引き上げ（8↓10%）に伴い施行さ



▲ 上野公平 講師

ポイント

れる軽減税率について、酪農協において新たに発生する手続き等についての説明。

① 対象は酒類・外食を除く飲食物

と週2回以上発行される新聞のみ。この判定基準は、販売者が食品と判断し取り扱うものであり、生乳・乳製品も軽減税率の対象となる。また、生体や飼料などそのまま食用出来ないものは標準税率の対象となる。食事をサービスとして供与する場合は外食扱いとなり標準税率対象となるが、仕入や経費は軽減対象かどうかを分けて計上することが必要となり、売上も同様に区分を記載した請求書や領収書などを発行することが必要



▲ 小海栄治 講師 永渕哲也 講師

となる。

② 経過措置を経て平成35年10月1日からは「インボイス制度」が義務付けられることから、全ての事業者が税務署に申請登録をすることが必要となる（それ以外からの仕入は仕入税額の控除が出来なくなる。）なお、酪農家の販売する生乳に関しては、共同計算し無条件委託販売となることから媒介者特例となりインボイスの発行は不要である。



▲ 東日本会場の様子

2 農業の経営継承、新規就農の現状と課題

講師

一般社団法人全国農業会議所

新規就農・人材対策部長

黒谷 伸氏



② 新規就農の有効な形態として①～③の例があげられる（農研機構の分類による）。

- ① 独立就農
- ② 法人経由型就農
- ③ 第三者継承

このうち、後継者を確保できなかった農家がその経営資源を家族以外の第三者に受け渡す方式である「第三者継承」により新規就農のケースが増えつつある。

第三者継承においては有形資産（農地、機械、施設等）、無形資産（技術、経営ノウハウ等）を「まとめて散逸させることなく」受け渡すことが重要である。

■ 第三者継承の方式には①～③があげられる。

- ① 研修後すぐに事業を移譲する
「研修終了後移譲方式」
- ② 一定期間移譲希望者と継承希望者が共同で事業を行った後に移譲する
「共同経営後移譲方式」
- ③ 継承用の法人を設立し、その法人の代表者を交代する方式で移譲する
「継承法人設立による移譲方式」

① 新規就農者は年間5～6人。うち49才以下は平成28年に2.2万人で増加基調。
新規自営就農者（実家農業）が大半、新規雇用就農者（農業法人などに雇用）が増加傾向にあり、新規参入者（全くの非農家）への給付金はあるものの、就農者が減っていく速度は早く、新規就農者が増えていく速度は遅い現状ではある。



▲ 西日本会場の様子

■ 農業経営継承事業の概要（農の雇用事業）

農の雇用では取り組み1タイプ（農業経営継承事業）として、後継者のいない優良な農業経営の栽培技術・農地・施設等を意欲のある第三者が引継ぐことを支援している。

〈事業の流れ〉

作目・地域など、お互いの希望を

勘案して組合せ、顔合わせ、事前体験、合意後、技術や経営の継承実践研修（最長2年）、コーディネートチームの設置や支援、合意書の締結（双方の納得する条件で）、合意書に基づき経営継承の開始（研修開始から5年以内）。

〈支援のポイント〉

技術や経営ノウハウを引き継ぐ技術・経営継承実践研修期間中、移譲希望者に対して年間最大120万円を最長2年間助成。事前体験は1件当たり最大2万円助成。双方にメリットが生まれ、移譲・継承できるように経営継承合意書を締結。関係機関によるコーディネートチームが地域の担い手として支援し、継承のための法人化も指導する。

なお、当研修会のご質問・資料請求のご希望がございましたら、

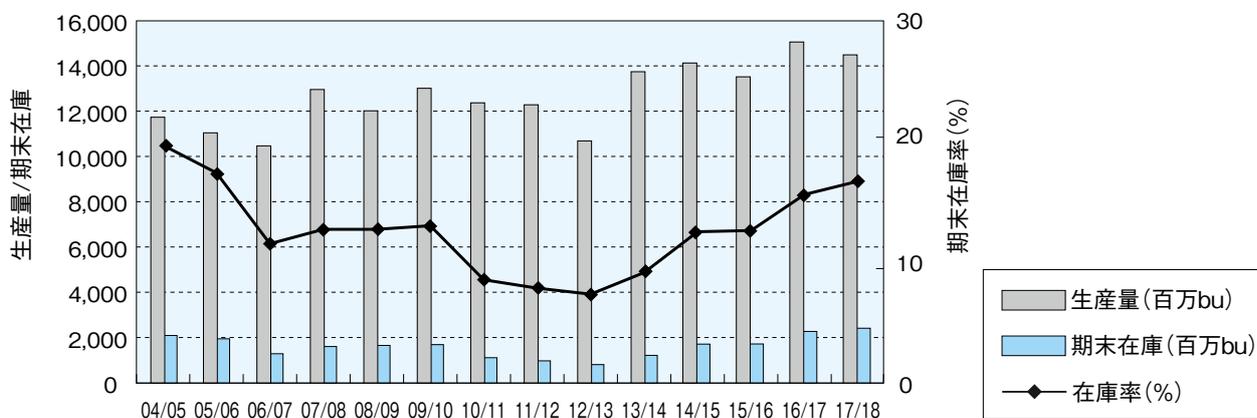
全酪連総務部 組織対策課
(03-5931-8003)

もしくは各支所指導組織課までお問合せください。

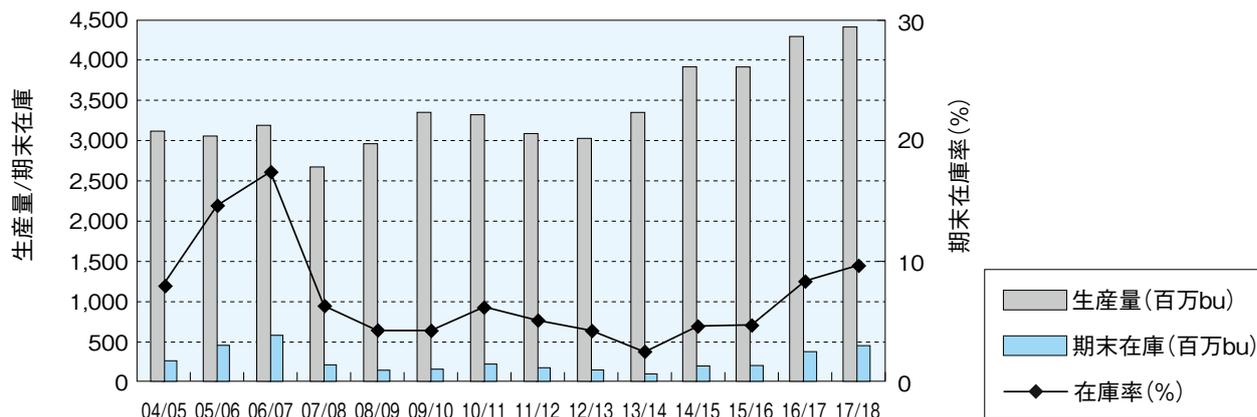


12月12日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	<p>【16/17年産】 作付面積94.0百万エーカー、単収174.6bu/エーカー、生産量151億4,800万bu、総需要量146億4,700万bu、期末在庫22億9,500万bu、在庫率15.7% 需給両面で変化なし。</p> <p>【17/18年産】 作付面積90.4百万エーカー、単収175.4bu/エーカー、生産量145億7,800万bu、総需要量144億8,500万bu、期末在庫24億3,700万bu、在庫率16.8% 需要面で増加し、期末在庫は減少。</p>
トウモロコシ 相場動向	<p>アルゼンチンでは乾燥懸念が生じている。南米が主要産地になった現在、南米の天候でシカゴ定期が反応するという天候相場になってきている。来月の発表でトウモロコシの単収が固まるが、それまでは南米の天候に左右される相場になるとみられる。</p>
12月12日発表 米国農務省 大豆需給予想	<p>【17/18年産】 作付面積90.2百万エーカー、単収49.5bu/エーカー、生産量44億2,500万bu、総需要量43億600万bu、期末在庫4億4,500万bu、在庫率10.3% 需要面で減少し、期末在庫は増加。</p>
大豆粕相場動向	<p>米国産は、需給予想で17/18年産は輸出等の需要が減少、期末在庫が増加。相場は期末在庫が市場予想平均を上回ったことに加え、乾燥が懸念されていた作付時期を迎えているアルゼンチンで降雨予想があったことから売られ、前日比-6-3/4¢の975-3/4¢（1月限）で当日の取引を終了。</p>
糟糖類	<p>【一般フスマ】 安定した畜産需要から需給が引き締まった状況。12月の粉価改定（小麦粉）で値上げが見込まれることから仮需が発生し、一時的に発生量は増加している。しかし1-3月期は反動で発生量が減少する可能性が高く、また引き続き需要は堅調と見られることから、相場は横ばいから強含むことが見込まれる。</p> <p>【グルテンフィード】 国内では季節的な要因によるスターチ、異性化糖の 需要の減少から発生量は減少傾向。輸入品は数量は前年並みに回復しているものの、中心となっている中国では環境問題による工場の操業停止、旧正月を前にした国内畜産需要が旺盛で価格は高騰。安定した飼料需要があり、総じて価格は値上げが見込まれる状況となっている。</p>
海上運賃	<p>パナマックス型市況は堅調に推移している。中国の鉄鉱石・石炭需要が引き続き旺盛なこと、大西洋水域での引き合いから、船腹需給が引き締まっている。原油相場も堅調な事も要因の一つとなっている。</p>

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

平成29年12月

北米コンテナ船 フレート	12月のGRI(海上運賃一斉値上げ)で、数社がPNW(太平洋西岸北部)出し分の値上げを実施することとなりました。12月1日のGRIを回避した船社についても、引き続き12月15日付けや1月1日付けて値上げの通知を出しています。数社が値上げを断行したことで、各社のGRIの動きが加速することも考えられ、その動向にはより一層注意が必要となります。
ビートパルプ	【米国産】既報の通り、新穀は例年よりやや早い8月17日から9月中旬にかけて順次スタートしており、順調に製糖作業及びペレットの生産が行われています。中国からの引き合いは引き続き旺盛です。現段階ではコンテナによる受け渡しとなっていますが、本船バラ積みでの出荷についても検討されはじめています。本船による物流が確立してくると、物量面や日本向けの出荷スケジュールなどへの影響が懸念されます。
アルファルファ	<p>【ワシントン州】主産地コロンビアベースンでの17年産の生産は終了しました。産地周辺の酪農家からの需要はカリフォルニア州に近い他産地に比べ穏やかで、価格についても他産地と比較すると穏やかに推移しております。しかしながら、上級品に対する需要は、輸出向けおよび米国内向けともに堅調であり、産地在庫はほぼ成約済みとなっている状況です。</p> <p>【オレゴン州】南部クラマスフォールズでは17年産の生産は終了しました。輸出向けに限らず、米国内の酪農家からも高品質アルファルファに対して需要が旺盛なことから、刈取り番手が進むにつれて産地価格は上昇し、特に成分が高い4番刈は3番刈を上回る価格で取引が行われています。中部クリスマスバレーでも17年産の生産は終了しました。当地では3番刈の良品が少なかったことから、輸出向け及び国内向けの需要が2番刈に移行したため、産地価格は高値のまま堅調に推移しています。</p> <p>【カリフォルニア州】カリフォルニア州中～北部でも17年産の生産は終了しました。当地域では引き続きアルファルファ、綿およびトウモロコシから永年作物あるナッツ類の転作が進んでおり、作付面積は減少しています。一方で、近年続いていたカリフォルニア州の水不足問題が緩和されたことから、収穫回数が増え総生産量自体は大きな変化がない見込みです。産地相場は、大型酪農家が多い地域に近いことから、搾乳牛用の上級品に対する引き合いが非常に強く、高級品～低級品まで昨年比で高値のまま堅調に推移しています。南部インペリアルバレーでは8番刈の収穫が終盤を迎えています。産地価格については、昨年比で高値のまま推移しています。理由としては、中国からの需要は乳価の低迷により引き続き低調なものの、中東からの需要は上級品を中心に全般的に旺盛であること、秋期以降新穀に向けて更新を行う圃場が増えたこと、現在種子価格が高騰していることから、種子生産用の圃場面積が例年の2倍近い作付面積となっていることなど、複数の要因から挙げられます。</p>
チモシー	<p>【米国産】ワシントン州での17年産チモシー生産は終了しました。チモシーの需要は日本および韓国から引き続き旺盛です。産地価格は強含んだまま堅調に推移していますが、カナダ産も含めると既に相当量が日本に入っており、今後国内で余剰が出る懸念もあります。</p> <p>【カナダ産】17年産の生産は全て終了しています。南部レスブリッジの1番刈収穫期には天候に恵まれたことから、総じて早刈り傾向となっています。このため単収が7.5t/エーカーと例年より若干減少していますが、上級品の割合が非常に多く、中～低級品を少ない状況となっています。中部クレモナでも天候に恵まれたため例年より約2週間早く1番刈が終了しています。当地区においても、総じて天候に恵まれたことから、例年よりも上級品の発生が多くなっています。近年にない良好な作柄を受け、日本及び韓国の引き合いは非常に強く、産地在庫はほぼ完売となっています。</p>
スーダングラス	今年度のインペリアルバレーにおけるスーダングラスの生産は終了しました。いわゆる早播きスーダンの収穫期は天候にも恵まれたため細く柔らかい茎が揃いました。また、小麦の収穫後に作付した圃場や2番刈の収穫時期には、一部降雨もあつたため刈り遅れ品などの中級品、低級品も発生しています。産地在庫については、上級品は完売、低級品は若干の余剰があるようです。北カリフォルニアでも今年の生産は終了しています。このエリアも上級品の荷動きは順調であるのに対し、低級品については引き合いが弱く、若干産地在庫があるようです。
クレイングラス	クレインは全酪連の登録商標です。 今年度の生産は終了しました。昨年の産地価格が生産農家にとって魅力的ではなかったため、主産地インペリアルバレーでの作付面積は減少してスタートしました。品質については1番刈から2番刈中盤までは好天のため良品が多く生産され、2番刈後半から3番刈にかけては例年通り、4番刈及び5番刈は例年より良品の発生が増え、低級品の発生が少ない状況になりました。産地在庫はほぼ完売の状況です。価格は日本や韓国の引き合いが引き続き旺盛であることから、変わらず強含みで推移しています。一方、産地価格が堅調なことから生産農家の生産意欲は増しつつあり、来年の作付面積については今年度比で増加するとの見方が強まっています。
ストロー類	主産地オレゴン州ウィラメットバレーではライグラス、フェスキューとともに17年産の生産は終了しています。今年の収穫作業は順調に進捗し、品質面も大きな問題はありませぬ。しかしながら、産地の作付面積は15%程度減少と言われており、単収も昨年比でわずかに減少していることから生産量は昨年比に比べ少なくなっています。産地相場は非常に強含みで推移しています。
オーツハイ	【蒙州産】西蒙州では刈り取りがほぼ終了、一部ベアリング待ちの圃場を残すだけとなっています。今年は生育期の初期に降雨が不十分で生育も不良でしたが、7月後半からの降雨で生育は持ち直しました。刈り取りは9月後半から行われ、10月の2週目の降雨前にベアリングまで完了したものは良品が収穫されました。その後、10月中旬からは断続的に降雨があり、70～80%程度は何らかの降雨の影響を受けたと思われます。一方で、生産量が多かった昨年度の在庫は十分量あるため、しばらくの間はほとんどのグレードが出荷可能な状況と考えられます。南蒙州、東蒙州では刈り取りは終了しており、一部のベアリング作業を残すのみとなっています。両地域とも当初は早刈り気味でしたが、その後は適度な降雨もあり、収穫時の天候にも比較的恵まれ、上級品が多く生産されています。南蒙州は一部雨当たり品も発生していますが、東蒙州は雨当たり品がほとんどないため、中級品及び低級品は旧穀の在庫を充当することになりそうです。産地価格については、特に南蒙州及び東蒙州で良品が多く発生していることから中国等の他国からも上級品の引き合いが強まっており、新穀はグレードによりますが前年並みから若干の値上げと予想されています。年明け以降、その動向がはっきり見えてくるものと思われます。蒙州産のストローも収穫が始まっています。現在、西蒙州では大麦わら(バーレーストロー)の収穫が開始されており、12月中下旬より小麦わら(ウィートストロー)の収穫が開始される見込みです。

効率的な繁殖のための移行期管理 ～繁殖成績改善のための栄養管理～



全酪連は、2018年2月にイリノイ大学畜産学部助教授フィル・カルドーソ博士を招聘し、全国6会場にて、全酪連酪農セミナー（平成29年度）を開催いたします。講師のカルドーソ博士は、イリノイ大学で乳牛栄養学分野の研究を行う一方、酪農現場への技術普及に対しても積極的に活動している研究者です。今回のセミナーでは、繁殖成績改善に主眼を置いた移行期牛の管理についての最新情報を、暑熱ストレスの影響なども踏まえた幅広い視点から紹介する内容を予定しています。また、セミナーとは別に研究者・指導者の皆様に向けた最先端情報を発信するワークショップも開催致します。是非ご参加下さい。



講師

フィル・C・カルドーソ博士
イリノイ大学 畜産学部助教授

【研究領域】

- 栄養と代謝性疾患、繁殖、移行期および生産性の関連
- 乳牛の移行期栄養と脂質代謝、インスリン感受性に関する研究
- 繁殖成績を最適化するための移行期栄養戦略
- アミノ酸給与が繁殖に及ぼす影響



【経歴】

- 2001年 ブラジル リオ・グランデ大学獣医学科 卒業
獣医師免許取得
- 2007年 反芻動物臨床および生化学修士号取得
- 2007-2009年 ブラジル サンパウロ大学にて研究員
- 2012年 イリノイ大学畜産学部 栄養学博士号取得
- 2012年-現在 イリノイ大学畜産学部 助教授

酪農セミナー2018

第1章

繁殖で覚えておくこと

- 繁殖器官・生理、管理の基本

第2章

受胎率改善のために分娩前後の栄養を最適化する

- 受胎率と乳量の関係
- 初期胚の死滅ロス
- 移行期の生理と栄養管理・肝機能
- 乾物摂取量、ボディコンディションの管理
- ボディコンディション損失と蹄病の関係
- クロースアップ期の栄養と給餌
- 飼料の粒子サイズ、澱粉濃度
- TMRの有効繊維・uNDF240 コンセプト

- 乾乳牛飼料設計の推奨

第3章

暑熱ストレス・・・単なる暑さだけではない

- 地球規模の温暖化
- 暑熱ストレスと経済性
- 暑熱ストレスを生理学的側面から理解する
- DCAD（飼料中陰イオン-陽イオン差）調整
- 乳熱・低カルシウム血症と暑熱ストレスへのDCAD調整の違い
- 乾乳牛のDCAD調整、泌乳牛のDCAD調整
- 環境への暑熱対策（特に高温多湿）

ワークショップ2018

第1章

アミノ酸・脂質栄養と初期胚

- 初期胚ロス
- アミノ酸栄養と発育
- 子宮回復とアミノ酸
- 脂質栄養と胚ロスの関係

第2章

暑熱ストレス・・・単なる暑さだけではない

- 暑熱ストレスの生理的影響
- 乳量低下の機序
- 暑熱と腸の健康
- 暑熱ストレスの繁殖への影響

第3章

低カルシウム血症と予防法

- 乳牛のカルシウム代謝
- 潜在性低カルシウム血症の問題と予防法
- DCAD（飼料陰イオン陽イオン差）コントロール

第4章

乳牛へのクレイ（粘土）利用

- クレイとは？その構造と機能
- カビ毒の弊害とその最新研究



開催日時と場所

※各会場とも開会は10:00、閉会は16:00の予定です。

2月7日(水)	熊本セミナー	グランメッセ熊本
2月9日(金)	名古屋セミナー	ミッドランドホール
2月13日(火)	岡山セミナー	岡山国際交流センター
2月15日(木)	帯広セミナー	北海道ホテル
2月16日(金)	帯広ワークショップ	北海道ホテル
2月19日(月)	仙台セミナー	江陽グランドホテル
2月20日(火)	東京セミナー	ランドマークスクエアトーキョー

参加費

1名様 ¥5,000（テキスト・昼食代含む）

対象

酪農家・組合役職員・公的指導機関、
あるいは研究者・獣医師・コンサルタントの方々

お申し込み・お問い合わせは、最寄の全酪連支所まで



Your Partner 全酪連

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇄……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	札幌管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計100.3%、累計で95.0%、苫小牧管内月計で102.5%、累計で99.0%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩、F1腹が中心となっております。12月開催の同地域の乳牛市場ではやや強含みの動きを見せましたが、横這いで推移すると予想されます。これからの購買は春産みとなってきますので、牛なりの良いものは高値となると考えられます。成績付きの高能力牛も出てくる地域ですので、ご要望がありましたら、お早目のご注文をお願い致します。育成牛につきましては、道内各地より同地域への市場へ購買が入っており、横這いのままで推移するものと思われます。
	初妊牛	83~93	→	
	経産牛	45~50	→	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	58~68	→	根釧管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.6%、累計で98.4%、中標津管内月計で101.6%、累計で100.2%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、4月~5月分娩が中心とした動きとなります。昨年と比較すると軟調な相場となっておりますが、良い牛は依然として高く、牛の質により価格に差が出る状況となっております。春産み中心の動きとはなりますが、情勢に大きな変化はなく相場は横這いで動く予想します。資源は例年並みの頭数があり、雌雄選別精液授精腹についても選別精液授精頭数の増加に伴い頭数を確保できる見込みとなっております。育成についても状況は変わらず相場は高値を維持しつつ横這いで推移するものと思われます。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	55~65	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	52~62	→	帯広管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で102.9%、累計で99.3%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩が中心となります。F1腹がメインとなっておりますが、雌雄選別腹も一頃と比べると探しやすい状況となっております。昨年同時期と比べると、5~10万円安い相場となっておりますが、道内外問わずメガ・ギガファームが市場購買に入る地域ですので、人気の春産みは高騰する可能性もあります。和牛受精卵移植牛につきましては、やや弱含みでの推移となることが予想されます。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	53~63	→	
道北管内	育成牛(10-12月令)	50~60	→	道北管内の12月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で101.0%、累計で99.3%、北見管内では月計で102.1%、累計で99.5%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3~4月分娩がメインとなります。昨年と比較すると初妊牛相場は比較的落ち着いた展開となりましたが、依然として雌雄選別腹、F1腹ともに80万円台で推移しております。雌雄選別精液授精腹については授精頭数の増加により相場は横這いと予想されますが、F1腹に関しては需要増加の為か、やや強含みで推移すると予想します。道内外において、規模拡大農家の初妊牛導入と更新も進んでおり、春産みということから価格の高騰の可能性もありますので導入計画がある方はお早目のご注文をお願い致します。
	初妊牛	85~90	⇄	
	経産牛	50~60	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	52~62	→	新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞ宜しくお願い致します。 道内の12月中旬までの生乳生産量前年比は102.0%、累計で99.3%の実績となっております。1月の初妊牛動向といたしまして、3月~5月分娩腹となります。昨年一年間の初妊牛価格(本会取扱実績)を平均価格で見ますと、平均86万円(最高月89万円、最低月83万円)となっており、年間を通し大きな変動も無く、高値圏での横這いといった状況となっております。資源としては、例年並みの状況となっております。需要としては、昨年に比べやや弱い状況ですが、道内の生乳生産意欲は高く、主要な産地では軒並み前年を上回る生乳生産量となっており、需要を支える状況となっております。本年も庭先購買を中心に行なって参ります。どうぞ宜しくお願いいたします。
	初妊牛	85~95	→	
	経産牛	53~63	→	

今月の表紙

今月の表紙は、「第8回酪農いきいきフォトコンテスト」(第46回全国発表大会にて開催)で応募頂いた作品「お手伝いだーいすき」(埼玉県 吉田尚予氏 撮影)です。



編集後記

●新年明けましておめでとうございます。
 本年も宜しくお願い致します。
 皆さまにとってどんな1年になりますでしょうか？
 全酪連会報はみなさんのコミュニケーションの一端を担う、より話題性に富んだ内容をお届けしてゆきたいと思ひます。

平成30年1月10日発行(毎月1回10日発行)

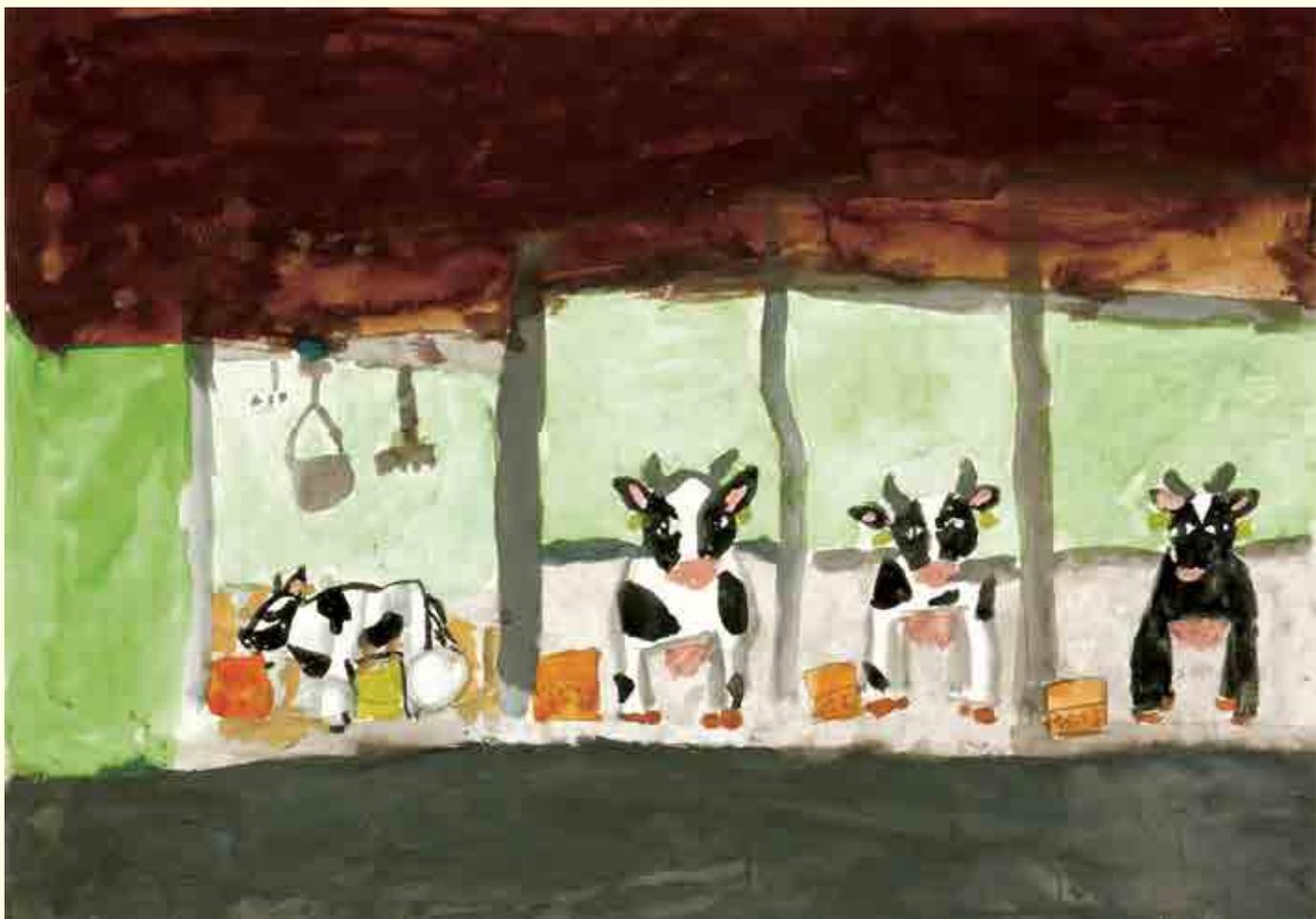
全酪連会報 1月号 No.628

●編集・発行人 川辺昭司
 ●発行 全国酪農業協同組合連合会
 〒108-0014 東京都港区芝四丁目17番5号
 TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



じいじいの牛舎だあ~いすき

津山市立新野小学校(西日本)3年 影山 みゆ

今月の入賞作品は…

津山市立新野小学校(西日本)3年の影山 みゆさんの作品です。

大好きなおじいさんの牛舎の様子を水彩画で描いた作品。大人しく繋がれた牛さんたちのそれぞれの表情をしっかり描いています。牛舎の雰囲気を感じる心に響く作品です。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第44回らくのうこどもギャラリー」で全国720点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議